

ごあいさつ

こんにちは、京都市青少年科学センター所長の瀬戸口烈司せとぐちけいしです。

この科学センターは、今から半世紀以上前の昭和 44(1969)年に、京都市の理科教育の総合教育施設として開館しました。以後、現在に至るまでの 50 年間余り、市内の小中学校や定時制高等学校、総合支援学校のほとんどの児童生徒は、科学センターに来所して、本市独特の観察実験学習やプラネタリウム学習、展示品を用いた展示学習を経験したことになります。

また、市立学校の理科を担当する教員の方への観察実験を伴う研修を一手に担うとともに、学校における観察実験授業の円滑な運営に不可欠な「観察実験アシスタント」の任用や配置等も行っています。



サイエンストークの様子

さらに一般公開として、100 点の展示品を有する展示場や昨年度更新したばかりの最新式プラネタリウム、「ちょうの家」や「カブトムシの家」などがある屋外園、乳幼児が自由に科学玩具で遊べる「親子ふれあいサイエンスルーム」などを設けております。私自身も、年数回「瀬戸口所長のサイエンストーク」というイベントを受持ち、最近では恐竜に関する話を、直接、恐竜好きの子どもたちを含めた御家族の方にもわかりやすく解説するよう努めています。

令和元(2019)年 7 月には「開館 50 周年記念式典」を挙行し、京都にゆかりのある著名人の講演会や「50 周年記念誌」の発行など、一つの節目を迎えたその直後に、コロナ禍に見舞われました。次々に新しい変異株が見つかり、感染者や重症者の多寡に一喜一憂する日々が続いています。

しかしながら、このコロナ禍もワクチンや治療薬の開発・量産化により必ず抑制できるはずです。それらは長年培われてきた科学の力です。ただし、この科学の成果を迅速に効率よく、遍く人々のために役立たせるのかは、「科学の方法の理解」と「それを活用する心構えの体得」があってこそ成し遂げられることだと思います。

このフレーズは、科学センターを発足するにあたり組織された「設置審議会」が提示された答申の中で示され、以来、科学センターの指導理念として受け継がれてきたものです。

為政者や医学関係者は勿論のこと、私たち一人一人がワクチンや治療薬を万能と捉えて頼るだけでなく、三密の回避やマスクの着用、消毒・手洗いの励行などは、科学を活用する心構えの体得につながる行動であると考えています。

科学センターでも人数制限やイベントの中止など、ご不便をおかけいたしますが、可能な限りの感染防止対策を講じていることをご理解の上、ご来館されますことを願っております。